

様式(細則 5-2)

平成 31年 3月 18日

浜田市議会議長 川神 裕司 様

議員名 沖田 真治



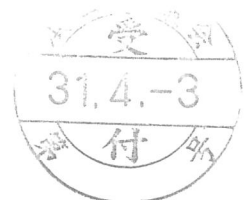
調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため研修等を行ったので、その結果を報告します。

記

1. 期 間 平成30年11月16日(金)
2. 調査研修内容
岡山県笠岡市において海を活かした事業を調査
浜田市観光交流課、こくふブルーツーリズム研究会と同行
3. 研 修 先
岡山県笠岡市議会
笠岡諸島視察・・・笠岡市議会議員 妹尾博之氏
4. 調査経費 10,000円
交通費 10,000円(経費内訳 笠岡諸島水上タクシー)
(浜田、笠岡間は浜田市公用車を利用のため経費不要)
5. 調査研究活動の概要

別紙のとおり



【視察研修の概要】

1、笠岡市議会

(1) 日本遺産に向けた取り組みについて

①テーマ【瀬戸内海の「石の島」】

笠岡市が申請主体となり、シリアル型（複数の市町村にまたがってストーリーが展開）で丸亀市、土庄町、小豆島町の2市2町で、H30年1月頃申請したが、残念ながら認定されなかったため、H30年10月に「備讃諸島日本遺産認定推進協議会」を設立し、再申請する予定。

江戸時代の石丁場跡（小豆島）、天然の奇岩・鎧岩（白石島）、近代から現代の石丁場（北木島）などがあり、石の資料館、体験型マリンスポーツなどを展開している。

②テーマ【神武東遷】

宮崎県宮崎市が申請主体となり、シリアル型で奈良県橿原市他17市町村で申請予定。H30年10月日本遺産推進協議会準備会を設立し、神武天皇の旅路でつなぐ縁をストーリーとする。

神武天皇が東征の途上「吉備の高島宮」に数年滞在したと『古事記』『日本書紀』に記されており、笠岡市高島宮がその島であると考えられて来た。島内には伝説が多く残っている。

申請に向けて動いているが、壁は厚く、市民の力が必要であると考えられている。

(2) 笠岡市におけるブルーツーリズム、海の駅など、海にかかわる事業について（行政の関わり方）

●美しく豊かな海づくりに関する協定書を締結

笠岡地区漁業連絡協議会（大島美の浜漁協・笠岡市漁協）、豊かな海づくり協働会（幹事：生活協同組合おかやまコープ・天野産業株式会社）、NPO里海づくり研究会議、笠岡市、岡山県

各団体が連携し、アマモ場再生、稚魚放流、海ごみ回収等の活動を行い、笠岡市の美しく豊かな海づくりを推進。

●笠岡諸島「食と農村」交流促進ビジョン

島外の仲間を募り、よそ者の視点を踏まえて、笠岡諸島の人や資源を見つめなお

し、今後の島の在り方を考えてきた。

交流をするだけでなく、「カタチ」にしていくことを目指す。

・地域協議会の開催とビジョン策定

- 1、「島だからこそできる体験」の発掘と磨き上げ
- 2、地域商社てきな人材・機能の確保
- 3、多様な形での島の担い手の確保と育成
- 4、島での交流機会と島からの情報発信
- 5、訪れやすく、過ごしやすい環境づくり

・ビジョン推進LAB

- 1、大学生インターンシップ事業、いかさ田舎カレッジ→地域の若者との地域連携をし、島の人材育成の場
- 2、かさおかみなとマルシェ
- 3、真鍋島移住者が奮起→交流施設、給食サービス、ゲストハウス、カフェ

2、笠岡諸島視察・・・案内：笠岡市議会議員 妹尾博之氏

水上タクシーで笠岡諸島を巡り、真鍋島に上陸し、笠岡市議会で聞いた交流施設、ゲストハウス、カフェを見学。





○所感

笠岡市は瀬戸内海特有の島が多くあり、日本海側とは違った趣があるものの海とのつながりは強い。カブトガニがまちのシンボルである以外は際立った特徴がなく、岡山市と倉敷市の間にある通りすがりの町と言った側面をもつ。

島の衰退を立て直すために、人材育成に力をいれ、18年前から大学生との交流をしたことがきっかけになり、新たなカタチができてきたのだと感じた。

そういう活動から海に関係する団体が集まり「美しく豊かな海づくりに関する協定書」を締結したことに繋がったと感じた。

浜田市にはそれ以上の観光資源があるが生かし切れていないのを感じ、人材育成の重要性を改めて感じる視察となった。